慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	新規事業開発の成功条件 - 新成長産業において競争優位性をいかに築くか -
Sub Title	
Author	新巻康彦(Aramaki, Yasuhiko) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1140号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1140

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1140

学生氏名　新巻　康彦

主査　奥村　昭博
副査　青井　倫一
國領　二郎

所属　奥村　昭博　研究室

新規事業開発の成功条件

—新成長産業において競争優位性をいかに築くか—

現在、日本経済は構造的変化の中にあり、これまでのリーディング産業である自動車、家電産業などから、新たなリーディング産業、情報通信産業などのシフトが予想されている。このような環境変化の中で個々の企業が生き残っていくためには、このような新成長産業分野への積極的な参入、新規事業の開発は重要な課題である。しかし、このような新成長産業において、同じような経営資源をもち、同時期に参入を果たした企業においても、その後成功しその産業内において持続的競争優位性を築く企業もあれば、確固たる市場地位を得られず撤退していく企業もある。この違いはどこから生まれたのであろうか。

そこで本論文では、新成長産業において競争優位性を築くために有効な戦略に関して仮説を導出することを目的とした。特に同様な経営資源量を持ち、同時期に参入した企業間でのケースに焦点を当てることとした。

そのため、まず従来の経営戦略、競争戦略の諸理論の研究から演繹的に仮説を導き、それを新期事業開発の事例にあてはめ検証するころにより仮説を導出するというアプローチをとった。事例としては、87年にスタートした長距離通信市場における新電電3社戦略を採用した。

その結果、強固な移動障壁を形成できる企業においては、開発期において積極型戦略（他社よりも新技術、新製品開発、設備投資等を積極的に先行して行なう）をとることが持続的競争優位性を築き、市場リーダーとなるためには望ましいという仮説を導出した。